

(1) 基本的に

陽明の病は、体の前面に主な症状が出る病で、ツボが浅く、熱が高く、動きが速いことが特徴。邪気が顔や前頭部に衝き上げる上衝を伴うことが多く、その反動として膝から下などが冷えて虚すことも多い。精神症状が出やすく、古典にも出ている。「高きに上がって歌い、衣を棄てて走らんと欲す」「一人戸を閉じ窓を塞いで居る」(『靈枢』経脈編)。比較すると陽性の精神症状が多い。

代表例は、熱中症、更年期障害、疝の虫など。不眠の多くは、太陽と陽明の合病。

邪気を散らし下げることと、手早い刺鍼が大切。腹や足の虚があれば補う。

比較すると、急性期が多い。慢性期には、腹足の虚を補し、上衝が起きにくい体質にしていく。足三里の灸など養生も大切。

(2) ツボが出やすい所

先ずは、手足の陽明経、特に、手の陽明の手首より先に引きやすい。鍼では、合谷、拇指・示指間の八邪。灸では、示指の拳先、骨空、指端、井穴、少しズレて、手親指の拳先、骨空、指端、井穴に出ることもある。足三里の灸は、恒常的な上衝を下げる効果があり、養生の灸として有名。

また、目の表面の病や、歯や口の周りの病など鎖骨から上の前面の病は、手の陽明に引きやすい。麦粒腫(モノモライ)、ニキビ、鼻の腫れ、口角炎、口唇ヘルペスなどには、手拇指示指の骨空への灸が効果的。詳しくは、「内科系急性期 1. 表位」。

乳痛、腹の表面の痼りなど胸から下の前面の病は、足の陽明に引きやすい。

梅雨明け直後の「真夏の老人の譚語」も合谷に引くと、直ぐに口調が穏やかになり、顔の赤みも減ることが多い。

前頭部は、熱い所を散鍼。

下腹部の虚が原因(虚火上逆)のことも多いので、ツボを見付けて補す。

また、足に古い虚したツボが出ていれば補す。大腿、脛脛、足首の、特に陰経側に多い。

更年期障害では、腹の虚が横にズレて、蝶骨の腹側の五枢～維道、蝶骨の足側の居寥にツボが出る。その関係で、足陰経のツボは、蠡溝、中封、照海など。腰痛や不眠を伴うときには関係するツボも出る。

不眠は、陽明と太陽の合病で、言葉や腹の虚などが原因で生じた邪気が頭を衝き、後頸部や肩が硬くて降りられず、頭の中で堂々巡りしている状態。頭の使い過ぎで真気が集まりすぎ降りなくても上衝の原因となる。陽明の病のツボの他では、後頭骨下縁の天柱～風池が効果的。横頸部中央や肩井や肩胛骨の辺りのツボも使って、後頸部や肩の周りを弛める。上腕の少陽から太陽や、手甲4~5間などに引くのもよい。

(3) 手順

慢性期を説明する。急性期は、実技編【1】先急(急性期)の表位陽明経の所を参照。

合谷に引き鍼した後に、ツボを考慮して慢性期の型で刺鍼。肩頸頭など、表位を中心に、触って熱い所は、散鍼してから刺鍼。

下腹や足に虚した古いツボが出ていたら、補すことにも力を入れる。特に、再発が多い場合や、陰性の精神症状が出ているとき。

急性期ほどではないが、手早い刺鍼も少し意識し、刺入時間、施術時間ともに短めを心掛ける。のんびり刺鍼し過ぎて、上衝を起こすことがないように。

自己養生として、足三里や足2指爪の灸などを習慣にしてみようのもよい。

要点

- ① 陽明の病は、ツボが浅く、熱が高く、動きが速い
- ② 前の病なので、先ず、合谷、1,2骨空に引く
- ③ 手早い刺鍼を意識する